

倉崎城だより

No.69

2025/7/1



「p.m.」いそはたみか

館長のおはなし

令和7年8月8日、日進市本郷町に道の駅「マチテラスにつしん」が開駅します。令和7年2月段階で全国に1230の道の駅があり、愛知県内では「マチテラスにつしん」が19番目になります。さて、全国各地にあり身近な存在となった「道の駅」。なぜ「道の駅」というのでしょうか。

「駅」というと電車の「駅」を思い浮かべると思いますが、そもそも駅というのは今から千年以上前、律令制の時代に古代日本の街道に整備された施設のことでした。つまり元々駅は道にあるものでした。古代日本にあった駅は街道を往来する役人などが馬を乗り継いだり、宿泊したり、食事をしたりする施設でした。律令制が衰退していく中で「駅」は「宿」や「宿場」という言葉に変わっていきま

した。
新しくできる道の駅「マチテラスにつしん」。瀬戸大府線を往来する人々の憩いの場として、日進市の新たな歴史を紡いでいくことでしょう。



2024年5月の
道の駅「マチテラスにつしん」



2025年6月の
道の駅「マチテラスにつしん」



8月8日 OPEN !



「日進市菊花大会 菊づくり講習会」

②7月5日(土)10:00～
③8月2日(土)10:00～
④9月6日(土)10:00～
⑤10月4日(土)10:00～

初心者の方でも大会実行委員が丁寧にお教えます。第2回、第3回と菊の植え替えを行い、立派な大菊を育て上げるお手伝いをします。(全日受講できなくてもかまいません。)



「岩崎城刀劇隊 ミニ剣術道場」

7月13日(日)
11:00～/14:00～
参加無料・雨天中止

岩崎城刀劇隊による剣術体験です。簡単な刀の扱い方、剣舞やポーズなどを練習します！参加回数で位が上がる「岩崎城侍大将への道」カードも配布しています。この日はレジェンド家康公天下泰平組が特別演武を披露！



「にわさきくん」

7月27日(日)
11:00～/14:00～

にわさきくんがお出迎えます！出陣日にはキャラ印も頒布しています。ぜひにわさきくんに会いに来てください！一緒に写真撮影もしていただけます。



「岩崎城 みんなのぬり絵展」

【展示期間】
8月3日(日)まで

みなさんにぬっていただいたぬり絵をお城に展示しています！岩崎城マスコットキャラクターや、岩崎城刀劇隊、丹羽家の家紋などのぬり絵がありますよ！



「岩崎城だより」

発行日 2025年7月1日(年4回発行)

編集・発行 岩崎城歴史記念館

〒470-0131

日進市岩崎町市場 67 番地

Tel 0561-73-8825

Fax 0561-74-0046

<http://www.mf.ccnw.ne.jp/iwasakijo>



岩崎城 HP はコチラ

◆開館時間

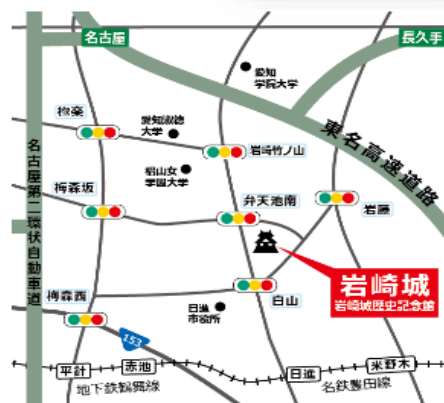
9:00～17:00

◆休館日

月曜日

(祝日の場合は開館)

12月28日～1月4日



夏の岩崎城

企画展

「昭和100年」日進と昭和」

令和7年、2025年は昭和が続いていれば昭和100年になる年です。戦争、戦後復興、高度経済成長など激動の時代であった昭和時代を振り返り、日進市の少し昔の生活などについて紹介します。

■展示期間

8月9日(土)～9月28日(日)

■入館無料



ぜひ、岩崎城ボランティアガイドをご利用ください！

岩崎城検定中級合格者で知識豊富な岩崎城ボランティアガイド。岩崎城の歴史や岩崎城址公園の説明をする岩崎城のガイドに加え、岩崎城の様々なイベントにて受付など、幅広く活動中！

【申込方法】

メール(申込書添付)、電話、FAXにてお申込みください。
電話の場合は、申込書に記入してある要項をお伝えください。
申込書は岩崎城 HP からダウンロードできます。
当日の3か月前からお申込みできます。ガイド案内料は無料です。

岩崎城ボランティア
ガイド HP



岩崎城ボランティアガイドと岩崎城を探検しませんか？

第2回岩崎城歴史講座

「一から学ぶ日進の歴史 ～岩崎城の戦い～」

岩崎城の戦いはどのような戦いであったのか初心者向けに分かりやすく解説します。

7月20日(日)14:00～15:00

【募集】7月1日(火)9:00～電話申込

講師：小池田奈々(当館学芸員)

【対象】どなたでも(先着30名)【参加費】無料



城主気分で

花火鑑賞

展望塔岩崎城の最上階からつつしん夢まつりの夢花火を貸し切り観覧！

9月14日(日)18:00～20:00

【募集】8月15日(金)～9月1日(月)
往復はがきに住所、氏名、連絡先、人数、必要駐車場数(3台)を記入しご応募ください。

【参加費】10000円(1グループ)当日支払い。



岩崎の民話



火ぶりと天狗さま



カンテラ
展望塔岩崎城で展示中
※9月13日(土)～
旧市川家住宅の
「市川家の灯展」で展示

昔この地方では捕魚ほぎよの方法で「火ぶり」というのがあった。

石油ランプやアセチレンガス燈とうをつけて、水田や川の中を振りまわして照らして、水中にいる、うなぎ・どじょう・雑魚ざこなどを、針のついた「たたき」で捕る魚法である。初夏から真夏にかけて水田や川の面で火ぶりの燈あかりがあちらこちらに見かけられるのは夏の風物詩であった。

この火ぶりを夜おそくまでやっているときには、奇妙なことがある。夜おそくまで火を振って魚を捕つてえものが籠かごにいっぱいになって来るころ、にわかにあたりがぱつと明るくなつて、しばらくの間、何かにつかれたようにぼんやりしてしまう。ふと気がついて、「何事かな」と思つて、びくを見ると捕つた魚がからになつてゐる。これは天狗がどこからかまい下りてきて魚をさらつていくのだと言われていた。

火ブリは「夜ブリ」ともいつて、夜七時頃、田んぼに明かりを灯してどじょうなどの魚をとることをいいます。田植えをしたすぐであれば、短い苗の横で寝ているどじょうを見つけることができたそうです。明かりは、四角い餅焼き網の四隅を棒で吊り、その上にタイマツを置いて火をつけてかざすか、灯油やカーバイドを燃料に用いるカンテラを使いました。

収蔵品紹介

◆慰問袋(いもんぶくろ)◆

戦地の兵士を勇気づけ、慰めるために、家族や学校の団体などから送られた袋。昭和12(1937)年の日中戦争以降、盛んに送られるようになり、戦地の兵士へ慰問袋や慰問文を送る行為は「銃後のつとめ」とされ、大いに勧められました。中身には石けん、キヤラメル、絵はがきなどの日用雑貨、青少年少女たちによる慰問文や人形、婦人会による千人針などが納められました。また、慰問袋の袋は衣料切符制の中で、唯一切符なしで購入できる布製品でした。戦局が厳しくなり、物資不足となると、袋や入れる品物も不足し、だんだんと慰問袋を用意することができなくなつていきました。

この慰問袋は日進から戦地へ行った人が持っていた慰問袋です。中になが入っていたのかは分かりませんが、二つ折りで丁寧に縫い合わせて作られていることが分かります。



慰問袋右側縫目